
けいおん！～戦場でも歌うよ！～もう一つの歌

ダス・ライヒ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

けいおん！～戦場でも歌うよ！～もう一つの歌

【Nコード】

N2146Y

【作者名】

ダス・ライヒ

【あらすじ】

けいおん！～戦場でも歌うよ！～の番外編。

唯達が戦う中、別の場所では駄目人間や戦闘狂、武偵、兵士達、特殊部隊、国を思う者立ちが戦っていた。 作者、秋秋刀魚さんの許可を取っております。

参戦作品と主人公紹介と設定（前書き）

けいおん！の戦場でも歌うよの番外編です。

本編よりかなりエグイです、そして別の意味で酷いです、苦手な方は読むのを控えてください。

参戦作品と主人公紹介と設定

参戦作品

けいおん！

ホームフロント（設定と一部のキャラのみ

番外編

カイジシリーズ

紺碧の艦隊シリーズ

ジパング

沈黙の艦隊（一部のキャラのみ

緋弾アリアシリーズ

IS インフィニット・ストラトス（キャラのみ

戦場のヴァルキュリアシリーズ（キャラのみ

ブラックラグーン

エースコンバット（一部のキャラのみ

バトルフィールドシリーズ

メダル・オブ・オナーシリーズ

COD WAW（日本兵のみ

学園黙示録（一部のキャラのみ

ゴットイーター（キャラのみ

主人公

日本自衛陸軍

伊藤カイジ

CV：萩原聖人

武器：89式小銃、P220

カイジシリーズでお馴染みの主人公。

その辺を彷徨いているところ、大朝鮮連邦の空挺部隊の虐殺に巻き

込まれる。

アースアーミー

アリシア・メルキオット

CV：井上満里奈

武器：M4カービン、P228

元アメリカ州軍所属。

地元でパン屋をしていたところアースアーミーにスカウトされる。
元の設定ではヴァルキュリア人化するチートキャラだがこの作品ではヴァルキュリア人化しないので「ただの怪我の治りが早い女性」となっている。（某自然オタクは脇役に格下げ

武装探偵

高野五十六

CV：屋良有作

武器：38式歩兵銃、M16A3、38式拳銃

元自衛隊特殊作戦群所属、現東京武偵校の校長。

元の設定は山本五十六が転生した姿、何故か武偵校の校長をしている。

ちなみに山本五十六とは一切関係無い。

設定

日本自衛軍

北朝鮮が朝鮮統一を果たした為、日本がそれを警戒して再軍備した。
基本的に装備は自衛隊時代とは変わらない。

大朝鮮連邦

北朝鮮が朝鮮統一して命名した国名。

突如日本に宣戦布告する。装備は北と韓国の混合。

アースアーミー

連合国が創設した特務部隊。

精鋭部隊と言っているが実際はPMCや予備兵、退役軍人、各国の懲罰部隊の寄せ集め部隊である。

参戦作品と主人公紹介と設定（後書き）

次話投稿は不定期です。

戦争の幕開け（前書き）

一話目はカイジ編です。

ややネタバレ注意です。

戦争の幕開け

ここは香川県某所。

そこにアツタシユケースを持つ男が居た。

その男の名は・・・伊藤カイジ・・・！

かつては自堕落な生活を送ってきた平凡な男、ある日突然借金が降りかかる。

仲間の保証人になったが原因であった、借金をチャラにする為に乗り込んだのが希望の船「エスポワール」カイジは悪魔の夜へいざわれる・・・！畏、裏切り、騙し合い、夜に行われる狂気のギャンブル・・・！そして幾多もの困難を乗り越え、カイジはたどり着く、闇の世界の魔王、帝愛グループ総帥兵藤和尊・・・！散っていった仲間の為にカイジは兵藤に勝負を挑む。

だが、カイジは敗北する・・・！カイジは負けるべきして負け、兵藤は勝つべくして勝つ、この狂気のギャンブルはカイジの血で終止符を打たれる・・・！

その後、敗者のカイジには闇医者による治療で借金はさらに膨れ上がる。

ひたすら賭博で返済を試みようとすることも幾度もなく失敗、逃亡生活を送っている内に遠藤と再会する。

カイジは遠藤にギャンブルを紹介する依頼するがギャンブルは紹介されず、借金の元締めである帝愛グループの地下施設で強制労働をさせられる羽目になる。一日外出券を得るためにひたすら金を貯めようとするが、所属するE班班長・大槻の巧みな策略で金を使い果たす。大槻はさらにカイジに給料を前貸しし、自身が経営する「地下チンチロリン」に誘い込む。またしても大敗し、地下で借金生活に追い込まれるも、カイジは大槻のイカサマに気付き、自分と同じ

境遇にある通称「45組」と協力し班長・大槻の打倒の為に決起する。3ヶ月にも及ぶ貧窮生活耐え、カイジ等は大概に大勝負を仕掛ける。カイジの奇策により見事勝利し、外出に必要な金を得る。

45組とカイジを含めて6人全員の借金を返済する資金を得ることを託され、カイジは80万円を手 に20日間の一時外出をする。裏カジノを探している最中、坂崎と呼ばれる男に出会う。

そこで紹介されたギャンブルは帝愛グループの裏カジノの置かれた1玉4000円のパチンコ「沼」

その「沼」で一攫千金を狙うも店長・一条の妨害により惨敗。八方塞がり状態になるもカイジは「沼」の攻略方法を閃く、計画遂行の為、大金が必要になった遠藤を仲間に取り入れる。

そしてカイジ、遠藤、坂崎は協力し再び「沼」に挑む・・・!店長・一条の妨害にさらされながらも奇跡的に勝利し驚愕な大金を得る、3人でホテルで飲み明かすが、遠藤はカイジ・坂崎のグラスに睡眠薬を仕込み、カイジの半数の資金を奪い、ホテルから去る。

そして、カイジは地下に居る45組と石田光司の息子、石田広光を救出。

その半年後、「沼」で共闘した坂崎家に居候し、働きもせず墮落し日々を送っていた。

そんなカイジに愛想尽かした坂崎は手切れ金として300万円を渡し、説教して追い出す。

そして今現在に至る。

「（畜生、何も追い出さなくていいだろう。命の恩人なんだしさ。）

」

カイジは心の中でそう思う。だが、カイジには働きもしなかった為に追い出されるのは当たり前である。ふと、カイジは下に落ちた新聞紙を拾い上げ、それを見る。

『日本、再軍備か。野党から反発、各地で反対デモ発生。』

「俺が逃走生活を送っていた頃か、新聞もろくに見もしなかったな」
そう、言いつつ次のページを捲る。

『朝鮮統一、統一したのは北朝鮮。大朝鮮連邦と命名、韓国政府と軍、日本に亡命。』

『大朝鮮連邦、軍備拡大。政府、日本海に警戒警報。』

「だから再軍備した。て、訳だ、俺が地下に入っている間、世間ほとんどもないことになってるな」

カイジは直ぐに納得する。だが、その時、通行に男が南東を指さす。

「おい、あれ。」

「あ？」

ざわ・・・ざわ・・・

ざわ・・・

ざわ・・・ざわ・・・

周りが異様な空気に包まれる、カイジは男が指さした方向を見た。

「あそこは東京辺りか、っ！？何だあの光は！？」

それは日本人が誰でも知る、光・・・！
この光は正しく、死の光・・・！核の炎でもあつた・・・！

戦争の幕開け（後書き）

第一話は戦場黙示録カイズです。

時間列は放課後ティータイムと同じです。

誤字脱字があれば感想にて・・・！

空からの死

核爆発が起き、カイジを含む全員が東京方面の巨大なキノコ雲をみていた。

「あれが、核の爆発・・・！」

この時、カイジは初めて核爆発を生で見た。
一生見られないと思っていた光景が目の前で・・・！

ざわ・・・ざわ・・・

ざわ・・・

ざわ・・・ざわ・・・

その時、カイジ等を我に返す声があがる。

「都民の皆さん、速やかに避難してください！朝鮮の軍用機が日本の領空に侵入しております。ここも攻撃目標になる可能性が高いのです。直ぐに避難の準備を！」

警官の避難指示で我に返ったカイジ、その場に居る市民達も東京方面から目を離す。

そしてカイジはあることを思いつく。

「（そうだ、坂崎のおっちゃん達を迎えに行かねえと。）」

カイジはそう思ったが、あることを思い出し躊躇する。

「（やっぱり止めておくか、美心が居るからな……。それに向こうもとつくに避難してるみていだし。」

カイジが躊躇した理由、それは坂崎の娘・美心。

スタイルは抜群なのだが顔は坂崎に限りなく似ており、カイジに恋心を寄せている。

もし迎えに行ってもしたら余計にカイジに思いを寄せるようになってしまう。

恐らく娘に激愛している坂崎も黙っているハズが無い。カイジはそう思い坂崎一家のことは迎えに行くのを止めるのであった。

自衛軍のトラックや装甲車、ジープ、対空車両が群れを列をなして走っていた。

恐らく近くの駐屯所から来たのだろう、上空にはヘリが数機ほど確認できる。トラックの荷台はそれぞれに弾薬や兵士が積まれているのが見える、そこで市民の話し声が聞こえてくる。

「おい、爆発以前のラジオを聞いたんだけど朝鮮の軍用機が日本に向かってくるそうだ」

「マジかよ、こりや間違いなく戦争だな。」

「ここが戦場にならん限り、俺達は無事だ。もし戦場にならん場合、荷物を戻す羽目になる」

「それもそうだが・・・」

「何とも他愛も無い話であった」と心の中で思うカイジ、スピーカーを付けた車両から促している。

《本日午後3時半頃東京にて核爆発が起きました。同時に大朝鮮連

邦軍機が日本の領空内に侵入、市民の皆さんは至急加賀駐屯所に避難してください。繰り返します」

時間がある程度たった頃、カイジの耳に少年らしき声が聞こえた、声がする方向を見ると小太りな眼鏡を掛けた少年が幼い子供の手を握りながら道行く人に声を掛けていていた。幼い子供の方をよく見ると女の子と確認できる、カイジは事情を聞くべくそちらに向かう。

「おい坊主。」

と、声を掛けてみる。

「は、はい僕ですか・・・？」

「ああ、そうだ。お前だ、その子は妹か？」

「いえ、違います。この子は迷子なんで、それでこの子の親を捜しているんです。」

「そうか、じゃあ一緒に探すよ」

「あ、ありがとうございます！」

「そんなに大きな声を上げなくても・・・」

照れるカイジ。

その後、カイジ達は女の子の親を捜す。その最中、思わぬ再会をする。

再会した人物の名は三好智広、かつて帝愛の地下施設で45組として共に戦った男・・・！

「カイジさん！」

「み、三好！」

「知り合いですか？」

と、太った少年が問う。

「何かって古い知り合いだよ、なあ三好」

「へへへ、カイジさん・・・」

誰も信じないであろう、自分達が大手企業の地下施設で強制労働をしていたことも・・・！

「それよりこの子。」

「ありすちゃんじゃないか、一体何処に居たんですか？」

「駐屯所の前でこのふつとちよと一緒に居た。お前の親戚か？」

「希理さんの娘さんですよ。さあ、駐屯所の前でパパとママが探していたよ、一緒に行こうか？」

「うん！」

ありすと呼ばれた女の子は三好の問いに頷く、三好はカイジを誘おうとするがカイジは断る。

眼鏡の少年は平野コータと名乗り、三好と一緒に駐屯所に向かって

いた。

またしばらくたった後。

駐屯所まで歩いている最中、突然そこから中に大音量が響き渡り、辺りが暗くなつた。

空を見上げると覆い尽くすほどの輸送機や攻撃機の編隊がエンジン音を響かせ上空を加賀上空を飛行していた・・・！

その数、輸送機と攻撃機、護衛の戦闘機を合わせると250機・・・！
大編隊から降下した落下傘の数はとても計り知れない・・・！

《対空射撃用意！》

対空車両が上空に照準を向け、自衛軍の兵士達が降下兵に小銃を向ける。

人々は慌てて兵士達から逃げるようにに離れていく。

「撃てい！」

一斉に放たれた銃弾や対空砲の弾は上空の輸送機や降下兵に当たつていく、中には対空砲の弾が命中し、上半身が真っ二つになる者も居た・・・！

カイジはただ突っ立てるだけである・・・！

「これ、戦争なのか・・・？ 本当の戦争なのか・・・？」

その時、カイジの服に赤い液体が付く、それは染みとなり広がる。そう、かつては自分も流して勝利した体に流れる液体その名も血液・

・・・！既に見慣れているカイジだったがあ然していた。
突如、装甲車が爆発する。降下兵が放った対戦車ロケット（RPG）
だ・・・！

「敵の歩兵だ！」

自衛軍の一人が降下兵を小銃で撃ち殺す。降下兵は力尽きその場で倒れる。

「敵の攻撃機や！撃ち落とせ！」

敵の攻撃機がこちらに向かってきた、対空砲は直ぐに目標に撃つ。
しかし、特攻を仕掛けるつもりであるらしく幾ら撃たれようが止まらない・・・！

自衛軍の一人の兵士がカイジの存在に気付いたのか突然カイジの手を掴み通りに滑り込む・・・！

「伏せるー！！！」

耳が遠くなる様な爆発音が聞こえた。

自衛軍兵士とカイジは無事だがしかし銃声は止まっていた、見るとそこには焼き焦げた装甲車や対空車両、特攻した攻撃機。さらには自衛軍の兵士の四方や肉の塊があった。

「う、げえ〜」

カイジは嘔吐した、目の前にグロテスクな光景が広がっているからだ、先ほどの自衛軍の兵士はヘルメット越しに手を耳に付けて何か喋っている。

「こちらD中隊第4小隊長雨宮リンドウ少尉。部隊は自分を残し敵の特攻で全滅、至急新しい座標の指示を願う、それと民間人が一名」

『雨宮少尉、民間人と一緒に直ちに駐屯所に戻れ、それと認識票を忘れるな』

「了解、認識票を回収しだい駐屯所に戻ります。オワリ、」

通信を終えた雨宮と呼ばれる士官は自衛軍の兵士の死体から認識票を取っていく。

カイジはそれをただ見ていた。やがてその士官はカイジに近づきこう言った。

「自分は自衛軍の雨宮であります、これから駐屯所まで貴方を護衛します。しっかり付いてきてください」

手を伸ばすリンドウ、カイジは迷うことも無くその手を握った……！

上空を見れば自衛軍の戦闘機部隊と大朝鮮軍の戦闘機部隊が空中戦闘ドックファイトを繰り広げていた……！

空からの死（後書き）

雨宮さんをご存じですか？

あのモンハンの同じようなゲームのキャラです。

誤字脱字があれば感想にて・・・！

殺戮地帯（キルゾーン）（前書き）

ダス・ライヒ「上手く書けたらノーカウント、ノーカウントなんだ
」

カイジ・45組・遠藤・坂崎・班長・一条「……………」
……………」

殺戮地帯（キルゾーン）

カイジはリンドウが認識票を死体から取っていくのを眺めていたカイジ。

しかしあることを思い出す・・・それは・・・金・・・！

「そうだ、金！金の入ったケースは！」

カイジは見つけた・・・！アッタシケースごと燃え上がる、坂崎の手切れ金300万！

思わず向かう・・・！だが・・・リンドウに止められる！

「か、金が！全財産が！ああ、何で俺だけ、何で俺だけなんだよ・・・！」

涙する・・・！目の前で燃える全財産・・・！この金が無ければカイジは一文無しである！

「やめてください！危険です！お金のことは諦めてください！」

リンドウは必死に静止する、カイジは堅いコンクリートに肘をつき、そのまま涙していた。

やがて気を取り直し、カイジはリンドウと一緒に駐屯所に向かう・・・！

「止まって、朝鮮語か・・・？数は6人か7人くらいか、武器はAKS74u・・・88式歩兵銃」

「おい、向こう側に居るのは敵か、それとも味方か？」

「いえ、喋ってる言葉は朝鮮語です。排除してきます、ここでお待ちを」

声をかける暇も無く、リンドウは89式小銃のセレクターレバーをタに合わせ通りへ出て行く。銃声が鳴り響き、やがて続々と同じような音が通りから鳴り響く・・・！通りで銃撃戦が起こる中、後ろから微かに声が聞こえてくるのに気付く「これは日本語では無い、朝鮮語だ！」と、心の中で思い。待ち伏せるため、武器になる物を探す。

「（これなら、ヘルメットをかち割ることくらいならできる・・・！）」

カイジは金槌を見つける。恐らく避難途中に落とした物だろう、急いでいるために取る暇が無かったのであろう。そう思いカイジは待ち伏せに的確な位置に付き、相手が来るまでひたすら待つ・・・！

「（声からして敵は一人、しかし殺れるのか？相手は兵士、しかも敵地に降下してくるから恐ろしくかなりの訓練を受けているハズだ。チャンスは一度、失敗すれば俺とリンドウって言う兵隊も死ぬ・・・！）」

じよじよに敵の足音が聞こえてくる。敵兵が近づいた瞬間、カイジは敵兵の頭に金槌を思いっきり叩きこんだ・・・！！

ドン！

金槌を叩き込まれた敵兵は頭から血を流した。だが、敵兵は倒れもせず、ナイフを取り出しカイジに襲いかかって

きた・・・！

カイジはリンドウに助けを呼ぼうとするが銃撃音はまだ終わっていない、まだ銃撃戦が続いていると言うことだ。敵兵が右手に持つナイフを必死に抑えていたが相手は精鋭の空挺部隊の兵士、その上カイジは自堕落な生活を送ってきた駄目人間、どちらが勝つと言えば空挺兵。だがカイジは必勝法を得る。

敵兵が付いている手榴弾のピンに目を付けた。「これなら勝てる・・・！」そう思い、カイジは相手を押し、手榴弾のピンに手を伸ばし、それを引き抜いた！

敵兵は慌てて装備品を外そうとするが間に合わず、爆発！気が付けば辺り一面が血で真っ赤となり、本来体の中にある臓器がそこら中にぶちまけられ、グロテスクな光景が広がっていた。

「これ、俺が殺したんだな・・・？」

カイジはただあ然していた。

その内銃撃戦を終え腕にかすり傷を負ったリンドウが戻ってきた。

「お待たせしました！すぐに駐屯所、こ、これは・・・！」

リンドウもグロテスクな光景が目に入る。すぐに気を取り直し、カイジを連れて別の場所へ移動する。

街中に銃声や爆発音が聞こえて来る中、一番近い方から銃撃音が聞こえてくる。リンドウは合図らしき言葉を叫ぶ。

「雷！」

カイジは訳が分からなかったが、これは軍が敵を見分ける合言葉である。それに合った合言葉が返ってこない場合、敵であると言うことになる。（現在の合い言葉は雷と雷鳴

「雷鳴！」

返ってくる来た、つまり味方。リンドウはカイジを連れ、味方部隊と合流する。

隊長らしき男がいきなりこちらに向かって怒鳴り声を上げる。

「何で民間人を連れてきた！早く安全地帯に連れて行け！」

「しかし大尉、この状況でどこに隠せと、ここには700人程が降下します！それに奴らは民間人まで撃ってる、知らぬ間に死んでるかもしれない！」

「仕方ない、よしその民間人に向こうにある墜落したコブラのパイロットを救出させよう。各員援護射撃の準備だ！」

「一体、何を言ってるんですか！？彼は民k」

「えーい、五月蠅い！ともかく貴重な人材をこれ以上失うわけにはいかん！」

なんとこの士官、カイジに銃撃戦のど真ん中に墜落したヘリのパイロットを救出させようと言うのだ、かなりめちゃくちゃな士官である。

「そう言うことです。援護射撃はきっちりやりますので、部下を3人程護衛に付かせますので行ってください。パイロットは女性です。で少しは軽いと思います。直也！佐藤！小賀！この民間人をコブラまでお送りしろ！もし、断った場合それなりの処置を取らせてもらいます。」

カイジは従うしかなかった、何故ならその士官が9mm拳銃を向けているからだ・・・！

呼ばれた自衛軍の兵士3人がバリケードから身を乗り出そうと準備している。

リンドウは「めちゃくちゃだ！おかしすぎる！」と叫んでいるが治療に來た衛生兵に黙らされる。

「1、2、3で行きます！我々から離れないでください！」

「言われずとも離れるかよ！」

カイジは若い兵士に大声で返答する。

そしてカイジと兵士等はバリケードから身を乗り出し、墜落したヘリへ走る！

同時に自衛軍の兵士達が援護射撃を開始する！

「撃てえー！援護射撃だ！」

味方の攻撃に当たるのではないか？と思いつつ、カイジと三人は走る！ただひたすら走る！

走ってる内に墜落したヘリに知らぬ間に付いていた。コクピット辺りを見ると、女性パイロットが足を押さえながら悶え苦しんでいた。カイジは重い装備品を女性パイロットから外し、そして持ち上げる。一人の自衛軍兵士が小声で「大尉は軍法会議だな」と言っていたが銃声音が響く中間こえたくるはずもない。

「全力で走ってください！」

自衛軍兵士のそれぞれが89式小銃や分隊支援火器M249を敵に向かって乱射する！

カイジは女性パイロットを持ち上げながら味方の陣地まで全力疾走する！

そしてバリケードを飛び越え、到達！それと同時に爆破音が各地に響き渡り前方に大型ヘリが見える。

「ありや、第一師団の連中だな。」

誰かが呟いたが、誰も気にせず。女性パイロットを下ろしたカイジはただ空を見上げていた・・・！

殺戮地帯（キルゾーン）（後書き）

COD4やナチスがアメリカ本土に攻めてくる戦争ゲームを参考にしております

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2146y/>

けいおん！～戦場でも歌うよ！～もう一つの歌

2011年11月17日16時53分発行